

2019. 2. 16～2. 22

カナダ国際交流 プログラム

引率：奥山先生・久保先生

現地コーディネーターの方々



目次

1. ホームステイ …山岸 笑璃
2. バンクーバーテクニカルスクール …松林 杏
3. ブリタニアセカンダリースクール …山本 光莉
4. 市内研修とカナダのお店 …山本 夢維
5. 日本とカナダ …荒井 遥
6. 最後に



1. ホームステイ

山岸 笑璃

今回のプログラムでは、2人で一つの家庭に泊まりました。日本とは違う環境で多くの不安がありましたが、事前のコンタクトや、おおらかなホストマザーのおかげで、いろいろなお話をすることができました。

ホストファミリーとの交流は滞在する二週間ほど前から始まりました。家族構成、住所、メールアドレスなどの基本情報をもとにやり取りを始めました。現地の気候や、持っていくべきものなど聞きたいことをあれこれ聞くことができました。ここでやっつけてよかったと思うことは、自分の趣味や、興味関心のあることを事前に伝えておくことです。そうすることで、現地で話が弾みました。

長い準備期間、長いフライトを終え、各家庭のもとへ行きました。私は、人見知りの性格と、英語でのコミュニケーションに不安がありました。しかし、この研修のいいところは、日本人の友達がいることです。困ったとき、互いに助け合うことができることです。慣れない英語での生活でしたが、ホストマザーが一生懸命聞いてくれたり、お互いに助けあったりして、うまくコミュニケーションが取れました。なんと、最後には、政治の話をすることができました。

私が最も不安だったのは、食事でした。なぜなら、海外では、ベジタリアンや、ビーガンが普通にいと聞いていたからです。お肉や魚のない生活をしたことがなかったので不安でしたが、初日の夕食のピザの上のベーコンを見たとき、とても安心しました。好き嫌いや食べる量にも配慮をしてくれました。また、帰宅後、食前、食後、事あるごとにティータイムがありました。ティータイムには、カナダのお茶のブラックティーや、日本の緑茶やほうじ茶などがありました。朝食は、日曜日だけはエッグベネディクトでしたが、平日はシリアルにフルーツといった簡単なものでした。学校のランチボックスは、サンドウィッチにリンゴまるまる一個、休み時間用のエナジーバーやお菓子といった感

じでした。リンゴをかじるのに抵抗があることを伝えるとナイフをつけてくれました。

私が、最も感動したのは家での過ごし方です。夕食が終わると、ティータイムをしながら、ホストマザーとお話をしたり、一緒にテレビを見たり、家族として過ごす時間があつたからです。学校、家族、日本の文化、政治...いろいろな話をしました。また、テレビもニュース、コメディドラマ、サバイバルバラエティーなどを様々なものを見ました。番組の合間に流れるコマーシャルはとてもユニークで、結局何?となることも多かったです。

楽しい生活をしていましたが、困ったこともありました。それは、寒さです。私たちが滞在した家は築五〇年越えの家でした。ホストマザーは、一人一人に、カーディガンと靴下、スリッパ、ブランケットを貸していただきました。また、一人一部屋貸していただいたのですが、片方は暖房のない部屋で、昼間はストーブがあるのですが、夜は安全の関係でつけられませんでした。その為、1日目の夜は震えながら寝ました。しかし、そのことを翌朝伝えると、追加でブランケットをくれました。2日目の夜からは快眠ができました。

日曜日はホストマザーと市内観光をして過ごしました。バンクーバー水族館や公園、ショッピングモールに行きました。感動したのは、ショッピングモールにあるスーパーです。『大阪スーパー』は東アジア（日本、中国、韓国）の食品を取り扱っていました。店内では聞きなれた言語が飛び交っていました。しかし、ホストマザーの評価も高く、とても興味深いなと思いました。

日本の文化に興味を持ってくれて、多くのカナダの文化を教えてくれているホストマザーのおかげで楽しい生活を過ごすことができました。ホームステイで大切だと感じたのは、コミュニケーションをとろうとする意識だと思いました。分からないことははっきり分からないと伝える、困っていることもしっかり伝えることが大切だと実感しました。

2.バンクーバーテクニカルスクールでの交流

松林 杏

私たちは6日間の研修のうち、4日目に姉妹校の Vancouver Technical Secondary School に行きました。

1限、2限、3限が80分授業、4限は75分授業でした。1限と2限の間の break time は15分間、3限と4限の間の break time は5分間、2限と3限の間にある lunch time はみなと総合と同じ45分間でした。とても不思議な時間割だと感じました。

私の時間割(バディの時間割)

1. Chemistry 2. World history 3. English 4. Math

一人ひとり時間割は違い、free blockがある生徒もいたようです。一つの授業時間が日本よりも約30分程度長いですが、あっという間に終わってしまいました。

学校の雰囲気はとても賑やかで、バディは私にたくさんの友達を紹介してくれました。break timeにはたくさんの生徒が廊下に出て話していました。その廊下には日本の学校と同じように、生徒一人ひとりのロッカーがありました。みなと総合の生徒ロッカーは正方形ですが、VanTechは縦長の長方形で業務用ロッカーのようでした。授業はもちろん全て英語なので、理解するのはとても難しかったです。そんな中でも私が一番理解できた授業は、意外にも Math でした。日本ですでに習った内容だったし、日本もカナダも数字は同じなので分かりやすかったのかなと思います。lunchはhost motherがサンドイッチとりんごを用意してくれて、バディや日本の友達などと会話しながら楽しく食べました。

この他にも日本の学校と異なる点がいくつかありました。最も違うと感じたのは授業中です。日本では授業中に居眠りをしてしまう生徒が多いですが、VanTechでは一人もいませんでした。学校に行く前に、「授業中に寝る人は一人もいない」と聞いており正直少し疑っていましたが、本当だったので驚きました。居眠りをしてしまうと、とても怒られるそうです。それに加え、発言がとても多

く積極的でした。授業中に疑問に思ったことはどんどん聞くということも普通なのだと感じました。また、小テストなど問題を解くときには、大きな仕切りのようなものを一人ひとりの間に置き、他の人の回答を見られないようにしていました。それともう一つ、授業中に飲み物を飲むことが許されていました。2限の World history にバディの友達が” Chatime” というタピオカ店に注文をしてタピオカを取り寄せてくれました。それが3限の English で届き、バディ、バディの友達、日本の友達と授業中に一緒に飲みました。日本ではあり得ないことだったので驚きましたが、とても楽しかったです。

一日だけだったけれど、バディやバディの友達の優しさをたくさん感じ、多くのことを学び、貴重な経験をすることが出来ました。



3. 姉妹校ブリタニアセカンダリースクールでの交流

山本 光莉

私たちは6日間の研修のうち2日間姉妹校のブリタニアセカンダリースクールのバディ行動し、そのうち1日はブリタニアのバディとバンクーバー市内の観光、そして残りのもう1日はバディと一緒に授業を受けました。授業は1科目90分で休憩は無く普段日本で受けている授業よりも40分長かったため少し辛く感じる時もありました。

私は、数学・化学・物理の3教科をバディと一緒に受けました。

本当は5時間授業があるのですが、私たちは3時間目の後に寿司パーティとアイススケート体験があったので3時間目で授業体験は終了しました。アイススケート体験では、バディではない子に、私がスケートは初めてでできないからとわざわざずっと付きっきりで何から何までスケートのやり方を教えてくれた子がいてとても嬉しかったし優しさを身にしみて感じました。

他にも中国語やたくさんの語学など多種多様な科目があるそうで、みなと総合と似ていると感じました。

逆に、授業が1科目90分なことや担当の先生によっては授業中お菓子を食べたり、スマートフォンの使用が可能という点

また、日本で学生を12年間経験してみて日本では授業中自分から発言をしたり質問をするということは少ないという印象があります、しかしカナダでは授業中一人一人が積極的に発言をしたり分からない所を聞いたりして日本との違いを実際に感じました。

他にも、バディからカナダの人は雪にメープルシロップをかけて食べると聞きとても驚きました。

今回研修に行く前から1科目90分なことや授業中お菓子を食べたことやスマートフォンを使用できることは事前に聞いていましたが、実際に体験してみると日本とはまた違う雰囲気を感じることができとても良い経験になりました。

また、授業に対して積極的という面に関して素晴らしいことだと思いました、さらにカナダの生徒は自分から発言することに対して恥ずかしいという感情が無く発言しているように感じたので、ぜひ私も見習わなくてはならないと思いました。

今回の研修に行き私は日本とカナダの相違点や共通点をたくさん感じ、さらには自分が見習うべき点も発見することができとても良い経験をすることができました。



4. 市内研修とカナダのお店

山本 夢維

私達は3日目、ブリタニアセカンダリースクールのバディと顔合わせをしてから、スクールバスでダウンタウンやガスタウンに行きました。移動中のバスの中では趣味や好きな物、自分達の学校や国について話したりしました。

最初にバスを降りたのはダウンタウンのグランビルアイランドです。ここには、子供のおもちゃ屋さんやお土産のお店があるキッズマーケット、さらにチョコやキャンディなどのお菓子やチーズ、パン、お肉、魚、野菜など色々な食べ物が売られているパブリックマーケットがあります。約2時間、バディと自由に買い物などを楽しむことが出来ました。カラフルな建物がたくさんあって、テーマパークのようでした。バディと一緒に見て回っている間、バディの子が「なにかほしいものはある？買いたいものとかある？」と親切に聞いてくれて、お店の案内をしてもらい、さらにはお金の払い方まで教えてくれました。

その後、またバスに乗ってCFパシフィックセンターでお昼を食べました。CFパシフィックセンターはダウンタウンの真ん中にあり、日本でも有名なGAP、H&Mなどの洋服店やジュエリーショップ、カフェや大きいフードコートがあります。このフードコートでは、カナダの有名な料理であるプーティンを食べることが出来ます。たくさんの人でとても賑わっている所でした。

最後は蒸気時計で有名なガスタウンに行きました。このガスタウンはギヤスタウンとも呼ばれ、当初バンクーバーのダウンタウン中心部として栄え、イギリス人水兵の蒸気船船長で、1867年に初めてこの地域に酒場を開いた“ギャシー”・ジャック・デイトンの名を由来としています。バディと自由に行動出来たので、お土産屋さんでメープルクッキーやメープル、チョコレートをたくさん買いました。残った時間を使い、蒸気時計の写真を撮りに行ったり、少し歩いてウォーターフロント駅やカナダプレイスを見たりしました。カナダプレイスは1986年のバンクーバー万博の際にカナダ館として建てられたもので、

2010年の冬季オリンピックの聖火台もあります。カナダブレイスに行くと、入り江の反対側にホストファミリーの家があるノースバンクーバーが見えました。それ以外にも洋服の店やタピオカのお店など、ガスタウンの見どころをたくさん紹介してもらいました。

カナダで有名な洋服のお店はビーバーのロゴが入った Roots（ルーツ）や、セレブ達が愛用している ARITZIA（アリツィア）などがあります。Arc 'teryx（アークテリクス）や Canada Goose（カナダグース）などのお店は日本でも有名だと思います。私は Arc 'teryx のリュックを使用していますが、カナダのブランドだとは知らなかったのでも驚きました。

カナダのスーパーはとても広く、商品も大きいです。特に印象的だったのは、レジのベルトコンベアのような仕組みでした。商品に乗せて仕切りを置くような形で、スーパーで買い物をするのが楽しかったです。カナダならではの菓子などを買えたので、とても充実した買い物が出来ました。



5. 日本とカナダ

荒井 遥

私が日本とは違うなと思ったところは4つあります。

まず、1つ目は現地コーディネーターのもとさんに言われたトイレペーパーを流してはいけないということです。理由として、日本よりも排水のパイプが小さいらしく、流すと詰まってしまうそうです。なので、使ったトイレペーパーは横にあるゴミ箱に捨てます。特に日本人の留学生はよくやってしまうことだとも、教えていただきました。私も何度か忘れかけて流してしまいそうになりました。

2つ目は、全てのものにおいて大きいまたは、極端なことです。1品1品の量が多かったり、味は大味なものだったりしました。私はご飯の時間は毎回、戦に出るような気持ちで席に着いていました。

3つ目はお金の単位のことです。カナダにはドル以外にセントという単位があります。セントには1, 5, 25, 50, の4つのコインで払います。レジではコンマ以下で表されるため日本では馴染みのないことと思います。私自身、使い方がわからず困っていましたが、お店の人にコインを広げてみせると使える場合は持って行って下さいました。

そして、4つ目に私が何より驚いたのがハンカチを持つ習慣がないということです。水道のある付近では必ずと言っていいほどペーパーもしくは乾燥機がありました。これはブリタニアセカンダリースクールのバディにも“日本人はいつもハンカチを持っているの!?” とビックリされました。

また、違うところだけでなく、同じところもありました。家の中では靴を脱ぐということです。お家によりけりなのかもしれませんが私たちの止まった家では家の中ではスリッパを履くお宅でした。そのため玄関の扉は外開きになっていました。

6. 最後に

最後にカナダでの1週間は毎日新しい発見があり、濃密な時間となりました。私はコイン全種類を持って帰りました。しかし、まだ見つけていないカナダがあると思います。また行きたいと思いました。

今回このプログラムを無事に終えることができたのは、引率の先生方、JTBの方々、現地コーディネーターの方、お見送りをしてくださった鹿島校長先生、そして保護者の方々のおかげです。本当にありがとうございました。

